

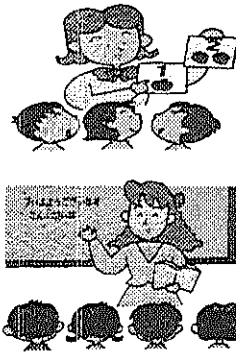
さいたま市教組情宣

さいたま市
教職員組合
(埼教組)

TEL 641-6763
FAX 648-3567
e-mail
saisikyouso@mx2.
et.tiki.ne.jp

2002.6.20(木)
No. 6

「現場の厳しい状況を受けとめ、これからも学校の状況を聞き、県に伝えていく」との回答引き出す



校長からも厳しい意見が……!

「学校の状況の中で、よりよい方向に考えておこなってほしい。」

現場の困難さを伝える!

まず、大宮・浦和・与野の各地区の組合員から、現場の困難さが切々と語られました。低学年の担任が放課後になって高学年などのT・Tの授業に行くために追い立てられるように児童を帰さなくてはならない実態や、教材準備をする時間がなくなることによって、その場しのぎの授業にならざるを得ないなどの実態を訴え、市教委の責任を質しました。

「少人数指導」問題で市教委交渉

5月29日(水)、市教委会議室で、少人数指導加配などに関わって教員の持ち時間数が増加している問題で市教委交渉がもたれました。当局からは島崎参事、林次長、加々美次長をはじめ12名が出席。市教組からは書記局をはじめとする20余名の組合員が参加し、約1時間半にわたって交渉を行いました。

また、年度当初の急な市教委からの指示文書で現場が混乱した事実も報告され、行政の現場を無視した姿勢の是正も訴えられました。

また、実施状況の把握については、学校訪問等の時に聞き、改めて調査するつもりはないと回答し、一部で言われているような「保護者の家に電話で聞くこともある」といったことはないと確認しました。

「市教委として実施状況の厳格な報告を求めるところは考えていない」(木村指導一課長) 応じた木村指導一課長は、少人数指導をやらなくてもいいとの回答はしませんでしたが、「状況は厳しいことを受けとめた」「校長からも、かなり多くの方からきびしい意見が出ている」として、「これからも学校状況を聞き、県へ伝えていくつもりでいる」との回答をしました。

緊急雇用対策の加配者は、少人数指導でなくてはならないという「しほり」はない!

さらにこの交渉では、緊急雇用対策事業での加配者は、少人数指導でなくてはならないという厳しい「しほり」はないことも明らかにされました。

学校運営の中で、柔軟に、そして強力的に行っていくよう!

次の時間がT・Tであったとしても、クラスの間でもがけんかして、その指導のためにT・Tに行けないなど、学校現場には緊急事態や非常事態、またそこまでいなくても様々なケースがあるのもです。そうした時は各学校の判断でT・Tの授業ができない、行けない場合ももちろんあります。

◆一年生、ようやく自分たちで下校できるようにになった。
「気をつけて帰るんだよ」と声かけながら5時間目の授業へ。「子どもが帰ってこない」という親からの電話にも対応できない。

各学校の実態と状況に応じた対応や判断はあって当然です。市教委もこのことについては組合の主張を認める内容の発言をしました。

◆現場が超多忙で、夜七時過ぎても仕事が終わらず、土日も仕事!5時間目を終わらせて、一年の子どもがまだ帰らないまま五・六年の授業へ。子どもが多様化し、一年生でもだっ

大事なこととは、子どもたちのためになる指導を、学校の創意で作っていくということにあるのです。

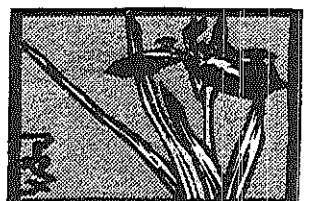
◆四時間授業の後、一年生を急いで帰して六年生の授業へ。ずうっと立ち通して職場のある先生が腰痛で2週間の病休をとった。もう現場はヘトヘトです。



子どもたちは先生の元気で笑顔を保っています。改善の手立てを早急に!

厳しい現状・実態、さらに明るく! 各学校で創意工夫し、早急に改善の手立てを!

対話をすすめることが大切



晋輔先生の

2016

実践講座⑤

「もし、いじめられている所に通りかかったら、あなたは止めますか」と学級のみんなの前で聞いてみました。するとA君が質問してきました。

「先生、いじめられている人って通りかかった人の友だちですか」

「友だちかどうかって大切なことなの」「そりゃそうですよ」

「そうなのか。じゃあね、同じクラスの人だけと、あまり親しくない人」

「なあんだ」

友であるうと何だろうと「止める」と答えた生徒はたったの三人。ほとんどの生徒がこのようなケースの場合、「通行人」を決め込むと言うのです。

子どもの感覚がその程度だとしたら、「いじめは悪いことだからやめなさい」というようなお説教をいくらしめても効果はあまり期待できません。そこで、できるだけその場面を再現させ、場面ごとに「それがいけなかったんじゃないの」「な」とと解説を加える事にしています。

「どう感じたの」といじめを受けた子ども悲しさ、悔しさを言わせて感情面からも訴えさせることも重要だと思えます。そして何よりも、こうした指導を通じて「自治の力」を育てることに気を配ります。

(中川晋輔 大久保中学校教諭)

つづく